

標 題： Olive oil consumption and risk of breast cancer in the  
Canary Islands : a population-based case-control study  
カナリア諸島におけるオリーブ油摂取と乳癌のリスク：  
住民に基づく症例 - 対照研究

---

著 者： P. Garcia-Segovia , et al. (スペイン ラスパルマス大学)

---

掲 載 誌： Public Health Nutr. 9(1A): 163-167 (2006)

---

要 旨：

背 景： カナリア諸島、特にグランカナリア島で、乳癌の死亡率および発症率がスペインの他地域より高い。

目的と計画： カナリア諸島における乳癌リスクに対する各種脂肪酸の摂取およびオリーブ油消費の役割を評価するために、症例 - 対照研究を計画した。

1999 と 2001 年の間に合計 755 人の女性で研究を実施した：乳癌と確認された 291 症例およびカナリア諸島栄養調査(ENCA)からランダムに選んだ対象 464 人。

半定量的な食品頻度アンケートを完了した、そして潜在的交絡因子を無条件なロジスティック回帰で補正した。

結 果： 1 価不飽和脂肪摂取が最高の群(5 区分)は最初低の区分と比較して、低い乳癌のリスクと有意に関連した(オッズ比 = 0.52 ; 95%CI 0.30 - 0.92)。

オリーブ油に関して摂取量上位 3 区分( 8.8g/日)の女性でオッズ比は 0.27 (95%CI 0.17 - 0.42)であった。

結 論： カナリア諸島の女性の間で乳癌に対するオリーブ油摂取の予防的な役割が、我々の結果で裏付けられる。

キーワード： 乳癌、オリーブ油、脂肪摂取、症例 - 対照研究

---